

日 本 な し

夷隅農林振興センター

1 地区名（集団名）

いすみ市岬町

2 栽培戸数、面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

- (1) 栽培戸数 1戸
- (2) 栽培面積 82.6 a
- (3) 収穫量又は出荷量 26.5 t
- (4) 出荷先又は販売方法 直売

3 ちばエコ基準達成状況

区 分	実施状況	ちばエコ基準
化学合成農薬(成分回数)	23回	26回
化学肥料(窒素分量)	9.2kg/10a	13kg/10a

4 事例のあらまし

いすみ市岬町は、温暖な気候に恵まれ、古くから日本梨の早出し産地として発展してきました。現在、一宮・岬梨組合岬支部の生産者は73名、栽培面積は43haであり、「幸水」「豊水」「新高」などが作られています。

本事例農家は、経営面積が日本梨82.6 a、ブドウ8 aであり、家族労働力は3人で、受粉時のみ雇用労力を活用しています。また、販売方法は主に自家直売です。

以前から性フェロモン剤を活用するなどして減農薬化に取り組むと共に、有機質肥料主体の施肥体系への転換を進め、平成18年に「ちばエコ農産物」の認証を得ました。

5 背景・動機

いすみ市岬町においても、新住民との混住化による農村環境の変化により、農薬散布や剪定枝の焼却が難しくなるなど、日本梨の生産をめぐる状況は年々厳しくなっています。こうした背景から、地域の環境と調和しながら安全・安心で高品質の日本梨を生産し、消費者に支持される産地となるために、生産者と関係機関が連携し、環境にやさしい農業に向けた取り組みを進めてきました。

平成13年度に町単独による「環境にやさしい農業推進対策事業」、平成14年度からは県の「環境にやさしい農業推進対策事業」を活用し性フェロモン剤の導入を進め、生産者の減農薬化事例から殺虫剤削減の指針を作成するなどし、減農薬技術普及を図ってきました。現

在では、性フェロモン剤の導入は栽培面積の50%以上を占めるようになっていきます。

本事例農家は直売主体であり、よりおいしく安心して食べられる日本梨を消費者に提供するため、以前から性フェロモン剤を活用するなどして減農薬化に取り組むと共に、有機肥料主体の施肥体系への転換を進めてきました。平成17年には後継者が経営移譲を受け、「ちばエコ農産物」栽培基準を目標にした、減農薬、減化学肥料に取り組みました。日本梨で「ちばエコ農産物」の認証を得ることは簡単ではありませんが、それを日本梨栽培における目標のひとつに据えて、更に意欲的に日本梨栽培に取り組みたいという後継者の考えも、「ちばエコ農産物」認証取得への動機となりました。



幟旗を梨園に設置して消費者に直接PR



安心を消費者に提供できる梨栽培を目指す

6 栽培方法

(1) 品 種

「幸水（簡易被覆、露地）」「豊水」「新高」「あきづき」

(2) 土づくりおよび施肥

粘土質の土壌であるため、暗渠排水の整備やホールディガーを活用した堆肥の局所施用などにより根圏環境を整え、土づくりを行ってきました。

肥料は、油かす、魚粕、カニガラなど有機質を主体とし、化成肥料の使用を大幅に抑えると同時に、施肥の時期や施用量を調節し、有機質肥料の遅効き防止に取り組みました。

(3) 病虫害防除

第一に、効率的な防除を行うことが出来るよう、結果枝間隔を広く保っています。特に、日本梨の主要病害である黒星病に対しては、落葉処理や越冬病班の除去など耕種的防除を徹底し、農薬散布のみに頼らない防除を行いました。

また、害虫に対しては、シンクイムシ類、ハマキムシ類を対象とした性フェロモン剤を設置した上で、無駄に予防的な薬剤散布は行わず、害虫の発生を確認してからそれに対応する防除を行うように努めました。

ア 栽培管理（露地「幸水」）

作業名	実施年月日
前作収穫終了	平成17年8月23日
収穫開始	平成18年8月3日
収穫終了	8月15日

イ 使用資材

(ア) 土づくり・施肥等（露地「幸水」）

(10a当たり)

使用銘柄 (N:P:K)	実施年月日	施用量	全 N	化学N
牛ふんもみがら堆肥	平成17年12月6日	2 t		
もみがら燻炭	12月6日	25kg		
米ぬか	12月6日	250kg		
なたね油かす粉末 (5.3-2-1)	8月19日	140kg	7.42kg	
	12月6日	100kg	5.3 kg	
	平成18年4月19日	160kg	8.48kg	
尿素(46-0-0)	平成17年9月22日	20kg	9.2kg	9.2kg
カニガラ(3-4-0)	12月6日	50kg	1.5kg	
魚粕(7-4-0)	12月6日	140kg	9.8kg	
有機アグレットバイオFミール特号(6-5.5-0)	平成18年5月23日	60kg	3.6kg	
ロイヤルグアノ(0-23-0)	5月10日	40kg		
合 計			45.3kg	9.2kg

(イ) 病虫害・雑草防除等（露地幸水）

使用農薬	対象病虫害	実施年月日
デランフロアブル	黒星病 芯腐れ症（胴枯病菌）	平成17年11月4日 平成18年4月3日 4月26日
※ハーベストオイル	ハダニ類	平成17年11月4日
マネージDF	黒星病	平成18年4月3日
サニパー	黒星病	4月15日 5月26日
ダイアジノン水和剤34	ナシヒメシクイ、ハマキムシ類、アブラムシ類、クワコナカイガラムシ若齢幼虫	平成18年6月21日
スコア顆粒水和剤	黒星病	4月15日
バリアード顆粒水和剤	アブラムシ類、シクイムシ類	4月15日
※コンフューザーN	ナシヒメシクイ、モモシクイガ、チャハマキ、チャノコカクモンハマキ	5月18日

使用農薬	対象病虫害	実施年月日
ベルコートフロアブル	黒星病、輪紋病	平成18年5月6日 5月16日 6月8日 7月1日
ハチハチフロアブル	ニセナシサビダニ、アブラムシ類	5月16日
モスピラン水溶剤	アブラムシ類、シンクイムシ類、クワコナカイガラムシ	6月8日
ストロビードライフロアブル	黒星病、輪紋病	6月21日
オーソサイド水和剤80	黒星病、輪紋病	平成17年10月24日 平成18年6月21日
インダーフロアブル	黒星病	7月1日
アミスター10フロアブル	輪紋病、黒星病	7月13日
バロックフロアブル	ハダニ類	7月13日
ロディー水和剤	シンクイムシ類、ハマキムシ類	7月13日
ジベレリン協和ペースト	熟期促進	5月15日

※印は、「化学合成農薬に含めない農薬」

7 今後の展望等

日本梨栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準は非常に厳しいため、基準を見直さない限り、生産組合単位で認証を取得することは不可能です。日本梨では、減農薬・減化学肥料の取り組みを直接消費者に伝え、PRすることのできる、直売主体の生産者に対して、「ちばエコ農産物」認証を推進していくべきと考えられます。

減農薬・減化学肥料に関する消費者の関心は高いものの、減農薬・減化学肥料によって販売単価を高く設定することはあまり現実的ではありません。単価の向上を目的とするのではなく、優先的に購入してもらえる高品質の日本梨生産を目指すことが、日本梨におけるちばエコ農産物認証の位置づけになるのではないのでしょうか。